

Let's ^{新宿}協働

いろいろあると
もっとおいしい!



みんな
協働
で
ハッピー

新宿区協働事業提案制度による 平成26年度実施事業のご紹介

Contents

平成26年度事業紹介

「働きやすい職場づくりの情報発信事業」	P.2
知ってた? 新宿区の協働事業	P.4
よくわかる! 「協働事業提案制度」とは?	P.8

2015年
2月発行

ワーク・ライフ・バランスが 実現された社会とは

「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章より

これまでの活動

① 「効率アップのためのタイムマネジメント セミナー ～仕事のムダを省いて ワーク・ライフ・バランスの実現～」

2014年9月2日(火) 男女共同参画推進センター(ウィズ新宿)

中小～大企業の人事担当者を中心に 47 名参加。効率的なタイムマネジメントがワーク・ライフ・バランスに結びつくことを学ぶ。アンケートより参加者の約 8 割から、「大変良かった」又は「良かった」との声。参加企業から「ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度」への申請もあった。

② 「新宿区ワーク・ライフ・バランス 推進シンポジウム」

2014年11月26日(水) 産業会館(BIZ新宿)

企業幹部・一般社員を対象に 50 名参加。一部では麗澤大学、木谷宏経済学部教授による「成長戦略としてのワーク・ライフ・バランス」についての講演。二部では、新宿区内におけるワーク・ライフ・バランス取り組み企業の実践的な好事例をパネルディスカッションで共有した。



新宿区子ども家庭部
男女共同参画課
男女共同参画主査
山内浩恵さん

公益財団法人 日本生産性本部
ダイバーシティ推進センター
主任研究員 高柳正人さん

新宿区子ども家庭部
男女共同参画課
武井秀太さん

豊かな人生とは何かを 考えるきっかけに

「ワーク・ライフ・バランスの推進」

ワーク・ライフ・バランスそれは働く人だけのものではありません。仕事、家庭、趣味や学び、地域活動など、充実した人生を送るために何が必要か。そのひとつの答えとして、協働事業「働きやすい職場づくりの情報発信事業」がスタートしました。

事業が始まって1年目の今回は、公益財団法人日本生産性本部と新宿区子ども家庭部男女共同参画課のそれぞれ担当者に、事業への思い、協働のメリットなどについてお話を聞きました。

なかなか進まない
ワーク・ライフ・バランスを
浸透させるには？

武井 ●新宿区では全国に先駆け

「ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度」を導入するなど、この問題に取り組んできました。「ワーク・ライフ・バランス推進企業」とは従業員の子育て・介護支援など、働きやすい職場づくりや地域貢献活動に取り組んでいる企業のことです。新宿区内の企業を対象に、こういった取り組みに関する情報発信と啓発活動を行ってきましたが、なかなか浸透しないのが悩みでした。

山内 ●ワーク・ライフ・バランス（以下、WLB）は福利厚生の実という誤った認識からWLBの正しい理解が企業に浸透していないことも理由にあると思います。働きやすい環境を整えることで、企業の生産性も上がるということを伝える必要があります。また、WLBに積極的に取

協働することで互いが得られるノウハウとネットワーク

山内 ●これまでも区としてWLBの推進に取り組んできましたが、「企業の生の声」が聞こえないことが一番の悩みでした。WLBの推進にあたって、企業はどのような情報が必要とし、何に困っているのかかわらなければいけません。

高柳 ●我々はビジネスの対象が企業なので、企業の生の声を聞くことはできます。一方、地域に密接に関わっている中小企業やNPOなどの地域活動団体との関

係が薄かったことが課題でした。区と協働することでこれまでアプローチする手立てのなかった、これらの方々とのネットワークができる。ここに協働のメリットがあると思いました。

山内 ●区としては日本生産性本部の専門性も大きな力になっていきます。多くの企業が現在抱えている、WLB推進における課題や企業の先進事例を知ることができるのもその一つですね。

一人ひとりが豊かな人生を送れる社会を目指して

武井 ●三年間の協働事業の目標は、WLBの認知度をあげること、区内のWLB推進に取り組む企業を増やすこと、WLBに取り組む企業同士のネットワークを構築すること、そして新宿区全体でより一層WLBを推進していくことです。

高柳 ●具体的な手段として、第一階はセミナーの開催によってWLBの認知度を高める、第二階ではホームページを作成し先進的な事例などを情報収集・発信をする、第三段階では収集した事例に基づいた勉強会を行い

り組んでいる企業やその先進事例も広く周知する必要もあります。

武井 ●そこで、これらの課題を解決するため公益財団法人日本生産性本部（以下、日本生産性本部）と新宿区子ども家庭部男女共同参画課（以下、区）が協働して取り組んでいる事業が「働きやすい職場づくりの情報発信事業」です。

ます。最終的には企業同士が連携し、互いに啓発し合い、情報交換し合うようになり、各社が全社を挙げて取り組むようになってもらいたいですね。

武井 ●WLBの効果はなかなか見えづらいという意見もあります。しかし、WLBに積極的に取り組んでいる企業のほうが、消極的な企業よりも、業績が伸びているという調査結果も出ています。

高柳 ●WLBは職場だけの問題ではありません。私たちは、24時間を会社に捧げているわけではありません。ある時は職業人であり、ある時は家庭人であり、地域住民であり、学ぶ人でもある様々な役割を持ちながら生活していますし、そのほうが豊かな人生ではないでしょうか。

山内 ●いろいろな人がいて、いろいろな生き方ができる。それを実現することがWLBです。豊かな人生を送るために、自分の生き方を選択できる社会。生きづらさや働きづらさのない未来の生き方・働き方はWLBの実現から始まると思います。

（小野和香子）

【団体名】

公益財団法人
日本生産性本部

【区担当課】

子ども家庭部
男女共同参画課

【区負担額(予算額)】

3,300千円

【協働事業名】

働きやすい職場づくり
の情報発信事業

【団体紹介】

産業界、学識者など各界の代表者により構成される民間組織。生産性運動の推進を通して日本の産業界を取り巻く諸課題に果敢に挑戦し、戦後の日本経済の自立と産業界の発展、国民生活の向上に大きく貢献。地球環境上の制約、グローバル化の進展、IT技術の発達、人口減少などの状況に直面するわが国において、「信頼と活力ある社会」を創る活動に積極的に取り組んでいる。

【団体所在地】

〒150-8307 渋谷区渋谷3-1-1
☎03(3409)1122 ☎03(3409)1007
🌐http://www.jpcc-net.jp/
✉dmc@jpcc-net.jp

文化と芸術のまち、新宿をもっと知ってほしい！



新宿オークシティのロビーで行われたコンサート(街角ス
ポットライブ)



路上で行われたトラッドジャズパフォーマンス(新宿ト
ラッド・ジャズ・フェスティバル)

「新宿フィールドミュージアム事業」は文字どおり、新宿区というフィールドすべてをミュージアムに見立ててしまおうという試みです。新宿区はもとより、伝統芸能から若者向けのライブやイベントまで様々な文化活動が盛んなまち。加えて、劇場やホール、美術館、博物館、能楽堂、寄席、寺社仏閣、歴史上の人物ゆかりの地など文化芸術関連施設にも恵まれています。

これらの文化的・歴史的資源を生かして区民にもっと文化芸術に親しんでもらおうと、新宿区と文化芸術団体、学校、企業等が連携して、新宿フィールドミュージアム協議会を組織し、スタートしたのが本事業。毎年10月と11月の2か月間を「新宿フィールドミュージアム文化月間」と定め、ライブや文化体験会など、大人も子どもも楽しめる幅広いジャンルのイベントを区内各地で開催しています。

(江尻道代)

02

新宿フィールドミュージアム事業の展開

【連絡先】 地域文化部 文化観光課
Tel.03-5273-4069



歩行者天国に敷かれた大きな紙に落書き(神楽坂まち飛びフェスタ)

03

人と猫との調和のとれたまちづくり

【連絡先】 健康部 衛生課
Tel. 03-5273-3148



人と猫との調和のとれたまちづくりセミナーの様子。約100名の参加があり、中には区外から参加する方も。

飼い主のいない猫(のら猫)をどうにか助けたいと思っている方、糞尿やゴミあらしの被害で困っている方……。のら猫をめぐる人の思いは様々。人と猫との共生を目指して、新宿区と地域住民、ボランティアの方々が連携し、「人と猫との調和のとれたまちづくり連絡協議会」を組織し「地域ねこ対策」に取り組んでいます。

協議会では、月に一度の連絡会を通じて、お互いの活動の情報交換や、のら猫で困っている人へのアドバイスなどを行っています。

また、区は不必要な猫の繁殖を防ぐため、去勢・不妊手術の助成を行い、地域住民やボランティアの方々は、糞尿による被害を減らすため、猫用トイレの設置活動を行うなどして、相互に協力しながら取り組んでいます。

(江尻道代)

新宿区では区民やNPOなどと協働してさまざまな事業を行い、地域課題の解決を目指しています。現在、195件もの協働事業が進んでいます。その一部を紹介します。

知ってた？新宿区の協働事業

手をつなごう みんなで子育て ハッピースマイル



01

家庭・地域の教育力向上支援(新宿子育てメッセ)

【連絡先】 子ども家庭部 子育て支援課
Tel.03-5273-4261

対象は、子育てに関心があるすべての人たち。新宿区で安心して子育てができることを実感してもらうために、子育て中のパパやママだけでなく、これから出産を考える人たちに足を運んでもらえる集いにしたいです。

次回は、2015年6月7日(日)に新宿コスミックセンターでの開催を予定しています。前回よりも会場を広くし、約50の団体が皆様のご来場をお待ちしています。詳細については「新宿子育てメッセblog(ブログ)」をご覧ください。

パパのための育児講座なども企画しています。ぜひパパも参加して、自分でもできるんだという気持ちをもって帰ってもらいたいです。パパの居場所を作るお手伝いができたらいいですね。

2014年6月8日に開催された新宿子育てメッセには、41の子育て支援団体が参加。来場者は1,770人。育児の相談コーナー、親子で楽しむマッサージ講座や歌あそび教室など、参加者が主体的に取り組むプログラムが多く用意され、参加者から「たくさん役立つ情報が得られた」などの声がありました。

新宿区には、0歳から小学校就学前の乳幼児がおよそ1万3,000人います。子育て中の親にとって、地域の子育てサポートや遊び場の情報は欠かせませんが、そうした情報に触れることなく孤立してしまうパパ・ママもいます。そこで、親子で遊びながら、区内の子育て情報や、子育て支援団体を紹介するイベントとして、平成22年度から年に一度開催されているのが「新宿子育てメッセ」。新宿区で活動する子育て支援団体と新宿区が協働して始まったメッセは、平成26年度で5回目となりました。(多田倫右)

※ <http://kidsmesse.blogspot.jp/>

新宿区子ども家庭部
子育て支援課
青少年事業係
地域活動指導員
五十嵐智子さん

第6回新宿子育てメッセ
実行委員長 鶴巻祐子さん

新宿区子ども家庭部
子育て支援課
青少年事業係
青少年事業主査
山王文恵さん

Q & A

この冊子「Let's 新宿 協働」も、区民編集委員と新宿区が「協働」して作成しているんです。いったい「協働」ってなんでしょう？

Q 「協働」とはなんですか？

A NPOとNPO、企業とNPO、行政とNPOというように、2つ以上の団体が共通の問題を解決するために、協力して取り組むことを言います。お互いの特性や得意分野を活かし、力やスキルを提供し合うことで相乗効果が発揮できるんですよ。

Q なぜ、協働が必要なのですか？

A 新宿区には子どもからお年寄り、外国人の人や障害のある人などいろいろな人が暮らしています。社会が変化する中で、様々な要望や解決すべき問題が出ていますが、行政だけでは対応が難しくなっています。一方で、NPO等の専門性を持った社会貢献活動団体に、公共の担い手としての期待が高まっています。互いが手を組み「協働」することで、様々な問題を解決していくことが必要なのです。

Q 「新宿区協働事業提案制度」って？

A この冊子のテーマでもあり、地域の暮らしを支援するための制度です。NPO等の社会貢献活動団体に向けて、その専門性や柔軟性を生かした事業提案を、区が募集します。そして、提案団体と区が「協働」することで地域の課題を効果的に解決し、住民の方たちの行政への参加を促し、さらに暮らしやすい地域社会を目指します。(事業の提案方法など詳しくは8頁をご覧ください)

Q この制度は、他の自治体にもある？

A 区内では、新宿区が始めた平成18年度は少数でしたが、現在は多くの自治体が導入しています。

Q 新宿区の今後の協働事業は？

A 2013年4月に「新宿NPO協働推進センター」を開設しました。NPO等の社会貢献活動団体の活動の支援・普及・啓発をすることで、多様な「協働」を推進していきます。そして、より暮らしやすい新宿区を目指します。

06

歌舞伎町クリーン作戦

【連絡先】 環境清掃部 ごみ減量リサイクル課
Tel.03-5273-4267

水曜午後3時 クリーン作戦部隊出動！



屋下がりの歌舞伎町。一方の手にはごみ取りトング、もう一方はゴミ袋。みるみるきれいになっていく通り。清掃作業員の人？ いえいえ、こちらは路上清掃活動を行う「歌舞伎町クリーン作戦」部隊です。メンバーは企業、ボランティア、区職員

など。通りを美しく保つことは、気持ちよく歩くため、自分の、そして皆のまちづくりのため。毎週水曜日、午後3時、どなたでも参加できます。区役所本庁舎正面玄関前でお待ちしています！
(小野和香子)

07

介護予防事業の実施 (新宿いきいき体操)

【連絡先】 福祉部 高齢者福祉課
Tel.03-5273-4568

介護いらずの 体をつくろう！



いつまでも元気に暮らしたい！そんな声にこたえて公募の区民、早稲田大学、新宿区が一緒に作った介護予防体操。これが「新宿いきいき体操」です。体操用にアレンジされた「平成新宿音頭」のリズムに合わせて介護予防のために必要な体力要素

を楽しく刺激することができます。普及活動を行うのはセミナーで指導方法を習得した250名以上の「新宿いきいき体操サポーター」の皆さん。新宿いきいき体操を通して、元気な体づくり、まちづくりを目指しています。
(小野和香子)

みんなの道をみんなで美しく！



新宿通りの花壇に花を植えるサポーターのみなさん。



04

道のサポーター制度

【連絡先】 みどり土木部 道路課
Tel.03-5273-3579

まち中で「道のサポーター」という看板を見かけたことはありませんか？「道のサポーター」とは新宿区の区道の清掃や緑化活動するボランティアさんたちのこと。
メンバーは、新宿区内の企業や町会、学校のほか、個人の方たち。無償ボランティアとして、区と連携し、活動場所や内容を決めています。
東京オリンピックを控え「もっときれいなまち 新宿」を目指し活動しています。
(上川暎子)

地域のエコに貢献し、持続可能な環境都市を目指す



「3R推進キャンペーンイベント」での活動の様子



「鶴ヶ島太陽光発電所」見学会の様子

05

エコライフ推進員の活動

【連絡先】 環境清掃部 環境対策課
Tel.03-5273-3763

次世代のために持続可能な環境都市を目指す新宿区。そのためには、区民、事業者、区が協働して取り組むことが重要です。
区では、平成16年度から区内在住・在勤・在学者を対象にエコライフ推進員を募集しています。エコライフ推進員は、区長から2年を1期とした委嘱を受け、日々の暮らしの中で自ら「省エネ」や「みどりのカーテン」などエコな活動を実践し、地域への普及・啓発を図っています。
平成26年度からは第6期、37名の方々が「エネルギー」や「身近な生活環境」をテーマとし、活動をしています。
(上川暎子)

よくわかる! 『協働事業提案制度』とは?

→ 協働事業提案制度ってなに?

地域が抱える様々な課題で、かつ、行政だけでは解決が困難な課題について、NPO等と行政の知恵と力で解決するためのしくみです。

→ 具体的には……

- 新宿区で活動を行うNPO等の団体が、**事業の提案**をします。
(区からあらかじめ設定されたテーマに対する提案、自由提案のいずれでも可)
- 学識経験者や区民らによって構成される**審査会が審査**します。
- 採択された**団体は、区と協働し**、該当事業を運営します。
- 事業の経費のうち概ね100万円から330万円までを**新宿区が負担**します。

→ 目的は?

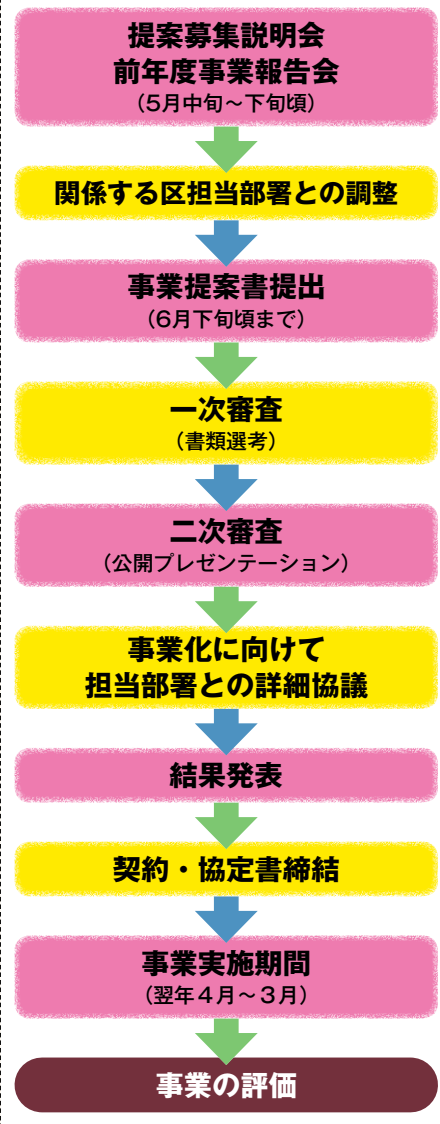
- 地域が抱える様々な問題を発見し、解決**します。
- 行政への**区民参加**を促します。
- 地域の活性化**を促します。
- 団体の提供するサービスを利用することで**区民の生活が豊か**になります。

→ 提案事業の条件は?

- ☑ 社会貢献的事业で**地域や社会的課題の解決**に役立つ事業
- ☑ 区民の満足度が高まり、**具体的な効果・成果が期待できる**事業
- ☑ 多くの区民やNPO等への**波及効果が期待でき、継続や拡大が見込まれる**事業
- ☑ 事業を通じて区民の地域活動への**参加意欲の掘り起こし**ができる事業
- ☑ NPO等と区が協働することによって**相乗効果が生じる**事業
- ☑ 明確かつ妥当な**協働の役割分担**で実施できる事業
- ☑ 協働事業を提案するNPO等が実施することが可能である事業
- ☑ 予算の見積もり等が適正である事業

[注]・特定の個人や団体のみが利益を受ける事業、学術的な研究、住民の交流行事等の親睦会的なイベント等は対象外となります。
・上記の内容は平成26年4月1日現在のものです。

事業の流れ



編集後記

●私は、2団体の取材をしましたが、まだまだ地域のことで知らないことが多数あると感じました。これをきっかけに地域のことに目を向けてみようと思います。
(江尻道代)

●思いつきをポンと口に出せるようになった頃、終わりを迎えました! 月に一度とはいえ濃密な時間の共有。皆さまありがとうございました。 (小野和香子)

●「伝える」と「伝わる」と一字違いで大きな違いを実感! 「とどける」気持ちの大切さを忘れずに日々精進です。協働? 行動! 感動!! あなたも! (上川暎子)

●行政のルールや制度だけでは見過ごされてしまう課題に取り組み多くの人たちが印象的でした。情報発信を通して私も社会参加の第一歩を踏み出せたかな? (多田倫右)

●編集委員の皆様、取材にご協力いただきました団体や事業課の皆様、本当にありがとうございました。皆様との協働により完成しました本冊子により、新宿区の協働がより推進されますことを願っています。(勝山雄太)

「Let's 新宿 協働」は、新宿区が行っている「協働事業提案制度」について広く知っていただくために、新宿区民からなる編集委員が、区民目線で読みやすくわかりやすい読み物を目指して制作しました。編集委員は、市民レポーター養成講座の修了生の中から希望者を募り選ばれたメンバーです。

新宿区協働事業提案制度による平成26年度実施事業のご紹介 「Let's 新宿 協働」 平成27年2月発行

編集・発行/新宿区地域文化部地域調整課 新宿区歌舞伎町1丁目4番1号

TEL.03-5273-3872 E-mail: chiikichosei@city.shinjuku.lg.jp URL: <http://www.city.shinjuku.lg.jp/>

印刷・製本/M & W株式会社 〒160-0022 新宿2-15-28 新宿丸正ビル601 TEL.050-3736-2196

編集人/石井栄子(いしづろ) デザイン・DTP/大野佳恵 表紙写真/pixta

印刷制作番号 2014-36-2601

この印刷物は業務委託により3,000部印刷製本しています。その経費として、一部あたり46円(税別)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。